

様式2022/9/27

会議名:1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査

原案審査(Ⅱ)

規格検討

三者委員

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格

JIS M 8704

鉄鉱石ローットの質量及び品質特性値の決定方法

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	JSA	堤	C.6		ed	(還元率は小数第1位以下をJIS Z 8401によって丸めて、整数で表し、プレーン比表面積は整数第1位をJIS Z 8401によって丸めて、整数で表す。)の丸括弧は必要でしょうか？		修正採用	丸括弧を削除し、「ただし、還元率及びプレーン比表面積は、小数第1位以下をJIS Z 8401によって丸めて、整数で表す。」とする。	承認
三者委員会	2024/2/22	2	JSA	堤	参考文献		ed	次ページの下段に記載する。		採用		承認

様式2022/9/27

会議名:1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査

原案審査(Ⅱ)

規格検討会

三者委員

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格	JIS M 8715
	鉄鉱石ペレット-膨れ試験方法

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	全体		ed	“かご”を漢字にしますか？	かご → 籠	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	全体		ed	JIS規格では、“見掛け質量”の方が多用されているようですが…。	見掛け質量 → 見掛け質量	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	全体		ed	漢字の変更	充填層 → 充填層	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	JSA	堤	まえがき		ed	2017年の追補改正を反映した記載に修正する。	「JIS M 8715:2015」→「JIS M 8715:2017」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	5	JSA	堤	2		ed	次の行に点線の下線を施す。 JIS K 2203 灯油、 JIS M 8719 鉄鉱石ペレット-体積測定方法 JIS Z 8401 数値の丸め方 JIS Z 8801-2 試験用ふるい-第2部:金属製 板ふるい		採用		承認
三者委員会	2024/2/22	6	JSA	堤	2		ed	JIS M 8700の注記に記載されているISO規格に、規格番号として「11323」を追加する。		採用		承認
三者委員会	2024/2/22	7	鉄連	石川	本文P1		ed	本文P1の最下欄に(1)が記載。	削除する。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	8	JSA	堤	2		ed	JIS M 8702(鉄鉱石-サンプリング及び試料調製方法)はMODで作成されているので、「JIS M 8702 鉄鉱石-サンプリング及び試料調製方法」に点線の下線を施し、注記を削除する。		修正採用	JIS M 8702は対応ISO 3082のMODであるが、引用している箇所の規定内容については技術的差異はないので点線下線は不要。注記も付す(ISO3082を追加する)。他の物理試験規格と同一とする。	承認
三者委員会	2024/2/22	9	JSA	堤	3		ed	対比表では、「ISO規格では、用語規格であるISO 11323を引用しているが、JISでは、使用者の利便性を考慮し、膨れ及び膨れ指数の定義を追加するとともに、ISO 11323とIDTであるJIS M 8700を引用している。」と記載されていますので、「次によるほか、」に、点線の下線を施してはどうでしょうか。		修正採用	「次によるほか、」に加え、他の物理試験規格と同様に、利便性により追加した用語、及び用語説明部分に点線下線を施す。	承認
三者委員会	2024/2/22	10	JSA	堤	5.1		ed	「JIS M 8702Iによって行い」の「JIS M 8702」に点線の下線を施す。また、対比表にも記載が必要です。		修正採用	昨年度改正のM8718等他の物理試験規格と同じ記載なので、統一する(点線下線の要否は判断が難しいが、他の物理試験規格でも「JIS M 8702」に下線なし。)。5.1はISOを意識して分かりやすく記載した。対比表には以下の通り記載する。「追加:JISでは、使用者の利便性を考慮し、JIS M 8702の10.8.2に定義されているA2の試料を用いること、及び受渡当事者間の協定による粒度範囲としてもよいことを追記した。技術的内容は同じである。:ISOへの提案は行わない。」	承認
三者委員会	2024/2/22	11	東理大	田中	6.2		ed	読点を挿入	鋼板製で内径 → 鋼板製で、内径	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	12	東理大	田中	図2		ed	記号番号と寸法の数値が混用されていますが、工夫できませんか。		採用	参照記号(数字)を用いずに、引出線の後側に説明を記載する。	承認
三者委員会	2024/2/22	13	JSA	堤	6.3		ed	字句修正	「金網かごは、各層6粒で3層、計18粒のペレットが置ける大きさのものとする。」→「金網かごは、各層6粒で3層、計18粒のペレットが置ける大きさのものを用いる。」	修正採用	「…スケールが発生しない金網かごを用い、各層6粒で3層、計18粒のペレットが置ける大きさとする。」に修正する。	承認

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	14	JSA	堤	8.2、8.3及び8.4		ed	対応国際規格の8.2を、JISでは8.2と8.3とに分けて記載していますので、関係する箇所に点線の下線が必要です。	8.2 還元前体積の測定において、「還元前体積の測定」に点線の下線を施す。 8.3の3 及び8.4の4に点線の下線を施す。	修正採用	8.2、8.3、8.4の「箇条番号」と「題名」に点線下線を施す。	承認
三者委員会	2024/2/22	15	JSA	堤	8.3 a)		ed	字句修正	「----測定試料保持具を挿入する。還元反応管の上部を密閉する。」→ 「----測定試料保持具を挿入し、還元反応管の上部を密閉する。」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	16	JSA	堤	8.3 d)	警告	ed	字句削除	「----有毒であるため、危険である。」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	17	JSA	堤	8.3 e)		ed	M8704では、鉱種(銘柄)と記載していますが、この規格でも、「銘柄」→「鉱種(銘柄)」に修正する必要はないですか？		原案のまま	鉱種は、ペレットに限定されています。	承認
三者委員会	2024/2/22	18	東理大	田中	9.2		ed	読点を挿入	用いて <b>附属書 A</b> → 用いて、 <b>附属書 A</b>	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	19	東理大	田中	9.2		ed	“以下”を挿入？	小数点1桁に → 小数点以下1桁に	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	20	JSA	堤	9.2		ed	字句修正	「小数点1桁」→「小数点以下1桁」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	21	JSA	堤	B.2.4.2 f)		ed	字句修正	「装置の周辺で注意深く点検を行う。」→ 「装置の周辺を注意深く点検する。」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	22	東理大	田中	B.3.2		ed	漢字に変更	すべて新たに → 全て新たに	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	23	東理大	田中	B.3.3.4		ed	漢字に変更	ふき取る → 拭き取る	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	24	東理大	田中	B.4.4	a)	ed	句点を挿入	調整(はしない)。 → 調整(はしない。)	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	25	東理大	田中	B.6.1		ed	読点を挿入	体積変化から測定試料 → 体積変化から、測定試料	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	26	東理大	田中	B.6.3	d)	ed	平仮名に変更	試験毎に → 試験ごとに	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	27	東理大	田中	B.6.3	d)	ed	句点は要りますか？	装置。 → 装置	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	28	東理大	田中	図B.7		te	図からだど、式は間違い？	C:A-B, → C:B-A,	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	29	JSA	堤	B.6.4.1		ed	点線の下線を施した箇所について、対応表に記載すべきでは？		採用	対比表には以下の通り記載する。 「追加:JISでは、購入したガラスビーズに含まれる可能性のある0.7mm以上の粒子又は試験中にペレットの摩耗により発生する可能性のある0.7mm以上の粒子を除去するために、0.7mmのふるいをういたふるい分けを追記した。:ISOへ提案する。」 合わせて、本文の「0.5 mm以下、0.7 mm以上の微粉」を「0.5 mm以下の微粉、及び0.7 mm以上の粒子」に修正する。	承認
三者委員会	2024/2/22	30	東理大	田中	B.6.4.2	a)	ed	字句の修正？	<b>附属書 B</b> の体積測定方法 (B.2~B.5) の → <b>B2~B5</b> の体積測定方法の	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	31	東理大	田中	B.6.4.3	b)	ed	漢字に変更	すでに → 既に	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	32	東理大	田中	B.6.4.3	c)	ed	読点“、”を“.”に修正	(単位:mm)とし、 → (単位:mm)とし、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	33	鉄連	石川	B.6.4.3	c)	ed	充填層を圧密する。スペースを削除	→ 充填層を圧密する。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	34	東理大	田中	B.6.4.3	e)	ed	平仮名に変更	この時、 → このとき、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	35	鉄連	石川	B.6.4.3	k)	ed	手順c)に 戻る。スペースを削除	→ 手順c)に 戻る。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	36	東理大	田中	B.6.4.3	m)	ed	読点を挿入	完了し手順 n)に → 完了し、手順 n)に	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	37	東理大	田中	B.6.4.4	b)	ed	j)はありません。	o)から j)を → o)から i)を	修正採用	j)は修正漏れです → o)~h)に修正します。 ※i)は4回繰り返し試験後、平均値を求める手順です。	承認

様式2022/9/27

会議名:1=原案審査(Ⅰ) 2=規格検討会 3=原案審査(Ⅱ) 4=三者委員会

原案審査 原案審査(Ⅱ) 規格検討会 三者委員

コメントタイプ:ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

対象規格 JIS M 8715  
鉄鉱石ペレット-膨れ試験方法

処置案・審議結果:原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	38	東理大	田中	B.6.4.4	e)	ed	読点を挿入 平仮名に変更	還元後測定試料のような脆い試料を装入する 際は DM を取り出しても良い、この時 DM が → 還元後、測定試料のようなもろい試料を 装入する際は、DM を取り出してもよい、この とき DM が	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	39	東理大	田中	B.6.4.4	f)	ed	読点“、”を“、”に修正	圧密後、 → 圧密後、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	40	東理大	田中	B.6.4.4	g)	ed	語順の修正	測定試料 V <sub>TSN</sub> (単位:mL)の体積を → 測定試料の体積 V <sub>TSN</sub> (単位:mL)を	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	41	東理大	田中	図B.8		ed	図中のすべての読点“、”を“、”に修正	、 →	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	42	東理大	田中	図B.8	題名	ed	平仮名に変更	測定する為の → 測定するための	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	43	東理大	田中	表B.1	題名	ed	平仮名に変更	決定の為の → 決定のための	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	44	鉄連	石川	表B.1	最右欄	ed	V <sub>RMN</sub> 下限=15.264 3”、”を削除	→V <sub>RMN</sub> 下限=15.264 3	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	45	東理大	田中	JA.4.2 JA.4.3		ed	“ガラス製”を挿入(2か所)	石英製 → 石英ガラス製	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	46	東理大	田中	JA.6	a)	ed	読点を挿入	よって測定試料の → よって、測定試料の	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	47	JSA	堤	附属書JB 3.1及び3.2 のd)欄		ed	一部字句を追加してみました。ご検討ください。	「ISO規格では、用語規格であるISO 11323を 引用しているが、JISでは、使用者の利便性を 考慮し、膨れ及び膨れ指数の定義を追加する とともに、ISO 11323とIDTであるJIS M 8700を 引用している。」 → 「ISO規格では、用語規格であるISO 11323を 引用しているが、JISでは、使用者の利便性を 考慮し、膨れ及び膨れ指数の定義を3.1及び 3.2として追加するとともに、これら以外の用語 の定義は、ISO 11323とIDTであるJIS M 8700 を引用している。」	修正採用	「ISO規格では、用語規格であるISO 11323を 引用し、JISでは、ISO 11323とIDTであるJIS M 8700を引用しているが、使用者の利便性 を考慮し、膨れ及び膨れ指数の定義を3.1及 び3.2として追加している。」に修文する。	承認
三者委員会	2024/2/22	48	東理大	田中	JB	6.1 d)項 8.2 d)項	ed	“規格”を挿入(2か所)	ISO → ISO規格	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	49	JSA	堤	附属書JB 6.1及び6.2 のd)欄		ed	字句追加	「ISOでは」→「ISO規格では」	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	50	東理大	田中	JB	附属書B d)項	ed	読点“、”を“、”に修正 字句の修正	図 B.8 のフロー図で、c)~h)の記載を、本文と 整合させ、分かりやすくした。 → 図 B.8 のフロー図で、c)~h)の記載を、 本文と整合させて分かりやすくした。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	51	JSA	堤	附属書JB 附属書JA のe)欄		ed	「JIS独自の規定であり、ISOへの提案は行わ ない。」を追加してはどうでしょうか？		採用		承認

様式2022/2/25

会議名：1=原案審査（I） 2=規格検討会 3=原案審査（II） 4=三者委員会

対象規格	JIS M 8213 鉄鉱石－酸可溶性鉄（II）定量方法－ニクロム酸カリウム滴定法
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	7.2	図2 (栓の 図)	ge	すり合わせ矢印の先端箇所が不適切です。また、この部分の線を削除して流通させる。		採用	修正後の図2を、欄外に示します。	承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	7.2	図3	ed	漢字に変更	ガラス棒でふさぐ → ガラス棒で塞ぐ	採用	修正後の図3を、欄外に示します。	承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	JA 4.1		ed	句点は不要では？	(図 JA.1参照。) → (図 JA.1参照)。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	東理大	田中	JA.4.1.2	図JA.1	ge	回転子の画もあったほうがよいのでは？		採用	修正後の図JA.1を、欄外に示します。	承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	JA 8 b)		te	0.016 67 mol/Lニクロム酸カリウム溶液は、6.8と同じ溶液を用いているので、ファクターの記号は同じにする？	$f_2 \rightarrow f$	採用		承認

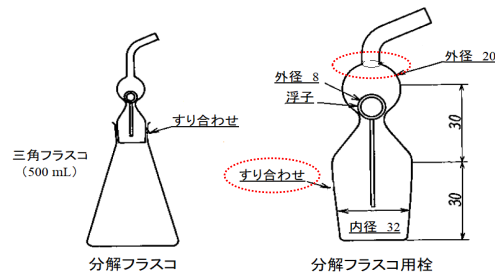


図2

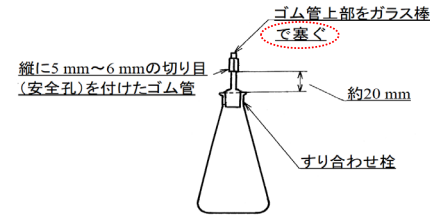
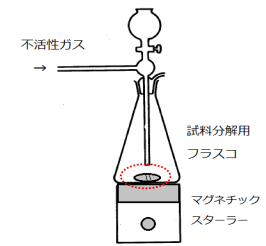


図3



図JA.1

様式2022/2/25

会議名：1=原案審査（I） 2=規格検討会 3=原案審査（II） 4=三者委員会

対象規格	JIS M 8216 鉄鉱石—りん定量方法—モリブドリン酸青吸光度法
------	---------------------------------------

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	8		ed	“量”を挿入	ばかりとりは、 → ばかりとり量は、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	9.1.3	d)	ed	読点を挿入	沸騰させ過剰の → 沸騰させ、過剰の	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	11	b)4)	ed	表記を合わせ、“て”を削除する？	操作して、対照溶液を得る。 → 操作し、対照溶液を得る。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	東理大	田中	A.9	表A.3	ed	“再現”を削除？	室間再現許容差の場合は → 室間許容差の場合は	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	JA	A.9 d)項	ed	“規格”を削除	JIS 規格は、 → JISは、	採用		承認



様式2022/2/25

会議名：1=原案審査（Ⅰ） 2=規格検討会 3=原案審査（Ⅱ） 4=三者委員会

対象規格	JIS M 8214-2 鉄鉱石一けい素定量方法－第2部：モリブドけい酸 青吸光度法
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	委員会 表紙 2.		ed	字句の修正	モリブドりん酸青吸光度法 → モリブドけい酸青吸光度法	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	7		ge	右欄の文章を加筆しますか？	装置及び器具は、次による。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	7.1		ed	送り仮名の修正？	蓋付のもの。 → 蓋付きのもの。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	東理大	田中	9.1	e)	ed	平仮名に変更	溶解し易くする → 溶解しやすくする	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	9.1	f)	te	常温の方が適切では？	室温まで → 常温まで	採用	室温: 20±15 °C, 常温: 20±5 °C	承認



様式2022/2/25

会議名：1=原案審査（Ⅰ） 2=規格検討会 3=原案審査（Ⅱ） 4=三者委員会

対象規格	JIS M 8220-1 鉄鉱石－アルミニウム定量方法－第1部：鉄分離 エチレンジアミン四酢酸二水素ナトリウム・亜鉛逆 滴定法
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		箇条 細分箇条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a), 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内 容	修 正 案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	6.10		ed	“溶液”を削除	塩化アンモニウム溶液5gをはかり → 塩化アンモニウム5gをはかり	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	6.11		ed	“塩”を加筆	酢酸緩衝液 → 酢酸塩緩衝液	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	6.11		ed	理解しやすくするために、字句を加筆	酢酸 7 mL を → さらに酢酸 7 mL を	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	東理大	田中	9.1	c)	te	分かりやすい文言に修正	溶液をビーカーに受け、 → るつぼ中の溶液をビーカーにあげ、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	9.2	e)	te	【質問】クロロホルム 40 mL を1 回で加えてはいけませんか？		回答	40 mL を1回で加えても問題ありません。 9.2（妨害元素の除去）で、クロロホルムを20 mL 添加する操作が複数回あるため、20 mL の全 量ピペットで採る前提としているものと推測し ます（対応国際規格の翻訳）。	承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	9.3	a)	ed	pHは2.5に合わせる必要がないので、“約”を挿入する。	pHを2.5に調節 → pHを約2.5に調節	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	6	東理大	田中	9.3	b)	ed	“塩”を加筆	酢酸緩衝液 → 酢酸塩緩衝液	採用		承認

様式2022/2/25

会議名：1=原案審査（I） 2=規格検討会 3=原案審査（II） 4=三者委員会

対象規格	JIS M 8220-2 鉄鉱石-アルミニウム定量方法-第1部:鉄分離エチレンジアミン四酢酸二水素ナトリウム・亜鉛逆滴定法
------	--

コメントタイプ：ge = 一般的 te = 技術的 ed = 編集上

処置案・審議結果：原案のまま 修正採用 採用

会議	年月日	No	委員		簡条 細分簡条 (e.g. 3.1)	細別・表・ 図 (e.g. a, 表1)	コメント タイプ	コメント提出		担当主査コメント		審議 結果
			社名	氏名				内容	修正案	処置案	理由及び審議内容	
三者委員会	2024/2/22	1	東理大	田中	目次	9.2	ed	細分簡条9.2(右欄)の欠落	9.2 不溶解残さの処理……………4	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	2	東理大	田中	序文		ed	読点を挿入	附属書Aは対応 → 附属書Aは、対応	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	3	東理大	田中	5		ed	“を”を加筆	二酸化けい素脱水した後、 → 二酸化けい素を脱水した後、	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	4	東理大	田中	9.2	a)	ed	読点を挿入	灰化し放冷する。 → 灰化し、放冷する。	採用		承認
三者委員会	2024/2/22	5	東理大	田中	A.3.1	a)、b)	ge	式中に括弧が必要では？(2か所)	$\sigma/A_A \times 100 \rightarrow (\sigma/A_A) \times 100$	採用		承認